

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立浮羽工業高等学校(定時制課程)

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	日本国憲法、教育基本法の精神に則り、自律心や創造性を培い、心豊かで責任感あふれ、自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応できる人材の育成に努める。			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
○教育相談の充実により、関係機関や保護者と連携して組織的な指導や支援が進み、落ち着いた学習環境が保たれた。基礎学力テストの結果を活用して、学力定着度や進路指導の方向性が確認できた。電子黒板やタブレット等のICT機器を活用し分かりやすい授業を展開した。学校行事や部活動等の様々な体験活動をおとして仲間づくりや自信を持たせる指導ができた。給食や掃除の指導をおとして、健康に対する意識や自己管理能力を高めることができた。 ●キャリア教育の充実・発達段階や多様な進路に対応した指導 ●確かな学力の育成・基礎学力の育成と多様な学びの展開 ●地域連携の強化・関係機関や中学校との連携による修学支援と中途退学防止の推進	個に応じたきめ細やかな指導を通して、就職・進学指導の充実を図り、生徒の進路実現に必要な力を身につけさせる。	適切な進路指導を通して、勤労観を重んじ個性の伸長を目指し、進路実現に向けた資質、能力を育成する。自己理解や資格取得に積極的に取り組ませる。			
	基礎からの学び直しやさまざまな体験的教育活動等を通して、生徒に自信をつけさせ、可能性を広げる。	TTやICT等の授業を取り入れ、補講を充実させ、積極的に行うことで、基礎学力の向上や資格取得・高認試験合格を目指す。			
	学校行事や部活動を通して、健全な仲間づくりを支援する。	体験的教育活動を通して自信をつけさせ、それぞれの個性を發揮し、認め合える環境を作る。			
	信頼される学校づくりと、その広報活動を充実させる。	保護者や地域住民の信頼を得るために、広報活動を積極的に行い、生徒募集につなげる。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
中途退学・原級留置等の防止	生徒情報を共有し、組織的な支援体制を構築する。	生徒情報交換会、教育相談委員会を活用し、早期情報把握と職員との共通理解を図り、多角的な支援を行う。	B	A	生徒の日々の状態の把握と情報共有に努め、学習状況や出欠状況等に応じて保護者・全職員で連携しながら問題の段階的・継続的な対応を図る。
		あらゆる機会を捉え、生徒との個人面談を繰り返し行う。	A		
	家庭との連絡を密にし、生徒の様々な問題に対して、早めに対応策を協議し、未然防止に努める。	担任・副担任が生徒の状況を毎日把握する。 保護者やスクールカウンセラー等の関係機関と協力して、効果のある指導や支援を行う。	A B		
学習指導	生徒一人一人の状況に応じた教材の工夫と分かりやすい授業の実施により、確かな学力の養成を図る。	ICTの活用や新課程に沿った学習評価を含めた授業づくりを推進する。 基礎学力の定着度を把握し、希望進路に応じて必要な学力を身に付けさせる授業を行う。	A B	B	ICTやアクティブラーニング型授業を積極的に取り入れ、分ける授業、達成感や学ぶ喜びを感じられる授業の実践を目指す。 学級や生徒一人一人の実態に応じて授業構成や指導方法を工夫し、個別の課題や補講等を計画的に実施する。また、担任や教科担当者で連携しながら、授業規律の確立や学習意欲の醸成に努める。
	きめ細やかな指導を行い、学習に向う姿勢を身に付けさせるとともに、遅刻・欠席・早退の減少に努める。	毎時の授業のねらいを明確にし、学習意欲や目的意識を高め、生徒が達成感を味わえる指導を行う。 授業規律と始業・終業の挨拶の励行を徹底する。	B A		
		効果的な指導や支援を行うために、生徒の実態把握を進め、生徒理解に努める。 職員間での情報共有や生徒との信頼関係の構築により、問題行動の早期発見と早期対応、未然防止に努める。	A A		
生徒指導	問題行動の未然防止を図ると共に、生徒の状況に応じた規範意識やマナーの向上を図る。	いじめ防止に向け小さな変化も見逃さない、細やかな生徒観察と職員間での情報共有を行い、組織的な指導を実施する。 活動目標と活動内容の充実を図り、部活動の活性化に努め、加入率を向上させる。	A A B	A	学期ごとの教育相談週間の取り組みによって、生徒の実態把握を適切に行い、生徒指導に生かしていく。 生徒情報交換会を毎週実施し、職員間でのより一層の情報共有を図る。部活動の加入人数を増やし、活動をさらに活性化させていく。 生徒の実態に応じて、SC、SSW等の専門職員や関係機関と適切な連携を図り、効果的な指導に努める。
	生徒の実態を的確に把握し、主体的に学校生活を送らせると共に、他人を思いやる気持ちを育み、いじめのない学習環境をつくる。	担任と教科担当者の連携を強化し、共有した情報を指導・支援に活用する。 SC、SSW等の専門職員や関係機関と適切な連携を図り、継続的指導を行い改善を促す。	B A		
	保護者との連携を強化し、基本的な生活習慣の確立を図る。		A		

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
	項目ごとの評価
A	学校関係者評価委員会からの意見 ・関係機関と連携し、組織的にきめ細かな指導を行い、引き続き中途退学防止に努めてほしい。
A	・今後も基礎学力の定着と学び直しの支援に力を入れてほしい。 ・社会に出てからも通用するようなICT活用能力を学校でぜひ身に付けさせてほしい。
A	・不登校経験者が多い中、親身になってよく指導していただき、出席率も向上している。 ・いじめのない、生徒が安全・安心に過ごせる学校づくりを心がけてほしい。 ・陸上部の2年連続全国大会入賞は素晴らしい。部活動をおとした仲間づくりや心身の成長などを期待している。

進路指導	生徒のキャリア発達を促すため4年間を見据えたキャリア教育計画に基づいた指導を行う。	キャリア・パスポートを活用して、学校生活の中で基本的なコミュニケーション能力やマナーを意識した指導を行う。	B	A	A	外部の講師やイベントを利用しながら生徒一人一人に合わせた進路実現へつなげていく。
	キャリア教育の方針に基づいて、各学年の実態に合う進路指導を実施し、進路実現を図る。	進路ガイダンスを定期的実施し、進路について考える機会を充実させる。	A			職場見学やオープンキャンパス等の行事について、多様な形態のプログラムを準備する。
	高校卒業程度認定試験や各種検定試験に取り組ませることで、基礎学力や学習意欲の向上を図る。	アルバイト等の社会経験が適切な職業観や勤労観の育成、勤労意欲の向上につながるよう指導する。	A	B		目標を持って学習に取り組ませることで、進路について計画的に考え、主体的な学習や進路実現につなげる。
保健指導	安心・安全な教育環境の整備に努める。	感染対策や校内の安全点検を徹底するとともに、不測の事態への備えを十分にしておく。	A	A	A	大掃除や行事の準備等、全体での清掃活動はよくできているが、ロッカーの整理や使用した机の消毒等、身の回りの整理整頓についてさらに指導する必要がある。
	保健教育・健康教育を通して、健康に対する意識や自己管理能力を高める。	月末大掃除やロッカーの整理整頓を実施し、生徒一人一人の美化意識を向上させる。	A			給食前後の手洗いやうがい指導を始めとした衛生指導を徹底し、生徒の自己管理能力を高めていきたい。また、今後の感染症対策については見直す必要がある。
	給食時の衛生面の指導やマナー指導を徹底する。	専門機関との連携を図り、生命・健康・食育などに関連した指導や支援を充実させ、自己管理能力を高める。	B	A		
地域から信頼される学校づくり	安心・安全な学校の姿を積極的に発信し、体験入学(学校見学)に参加する中学生を増やす。	学校ホームページへのアクセス数を増やすために、更新作業を速やかに、トップページを魅力的なものに変更する。	A	A	A	ホームページ更新や定時制通信の発行を行うことができた。閲覧数は伸びているが、更新や発行が遅れ気味であったので、スピード感を持って行っていく。
	PTA活動の活性化を図り、PTA行事への保護者の参加を増やす。	授業や行事、部活動など、定時制の教育活動について、発信する材料を日常的に蓄積しておく。	A			PTAの理事会は年7回行い、保護者もそれぞれ参加できている。学校行事にも保護者が積極的に支援してくれた。今後も保護者との連携を深め、PTA活動を活性化したい。
	学校行事を通して、地域の人々との触れ合いや郷土に対する愛着を深める。	PTA理事会の円滑な運営に努め、PTA活動や行事に参加しやすい状況をつくる。	A	B		学校行事は円滑に行うことができたが、前年度踏襲である部分が多いので意義やねらいを確認し、意見やアイデアを積極的に取り入れていく。
	中学校訪問や公開授業を通して、本校の教育活動についての理解を得るとともに、地域における本校定時制の存在意義を高める。	生徒の意見や希望を反映した企画にすることで、主体的な参加意欲を喚起する。	B	B		中学校訪問は職員全体で分担し、一定の効果は上げている。次年度は時期と回数を再度見直し中学校との連携を強化したい。
	生徒による授業アンケートや公開授業時の参観者アンケートを基に、授業改善と教育の質の向上を目指す。	事前学習により意義やねらいを確認した上で、地域との関わりを意識して取り組ませる。	B	A		ICT支援員による授業支援や研修により、各教員のICT活用能力が向上した。次年度は一人一台端末を活用した授業改善に取り組みたい。
	年2回の中学校訪問では情報交換と共に、在校生や保護者の直接の声を届ける工夫をする。	公開授業の際に参加者との意見交換の場を設けることで、教育活動への理解を促す。	A	B		

A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を充実させ、進路選択、実現に向けて段階的な指導をお願いしたい。 ・アルバイトの経験を適切な職業観や勤労観の育成、勤労意欲の向上につなげてほしい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の際の衛生指導など、感染症対策の指導が良くなされている。 ・食育や衛生管理など生徒が立ちできる力をぜひ身に付けさせてほしい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校や引きこもりを作らないという定時制の一つの存在意義を中学校や地域と共有し、教育活動を進めてほしい。 ・定時制が学校行事をととして生徒の成長を促していることを学校HPなどでもっとアピールしてはどうか。 ・地域でのボランティア活動など、積極的に地域に関わり貢献してほしい。 ・生徒たちが将来地域を支える人材になれるように、支援していきたい。

評価項目以外のものに関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業証書授与式の卒業生代表答辞に感動した。参列している在校生の態度もよく、感心した。 	

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・個に応じた学びの提供:ICTを活用し、それぞれのニーズに応じた個別最適な学びを提供できるように工夫する。
- ・キャリア教育の充実:発達段階や多様な進路希望に対応した4年間のキャリア教育計画を作成する。
- ・地域連携の強化:中学校や関係機関との連携を強化し、就学支援と中途退学防止に努める。